

『奇跡の御聖体に想う』

マルガリタ・マリア 木全 和子

ロザリオの月にピオ神父ゆかりのサンジヨバンニ・ロトントとローマ、ルルドの巡礼に行つて参りました。名古屋からは南山教会の方三人、城北橋教会から二人、大道さんと一緒でした。十二時間の飛行機の旅、ミラノで乗り換えパリに着き、またバスに乗つて、サンジヨバンニ・ロトントのホテルに着いたのは、夜中の一時を過ぎていました。翌日十時のごミサでしたが、教会に着いて、ごミサの場所が、小聖堂か、その他の所か、分かりませんでした。急にピオ神父様の地下室のお墓の前の方に祭壇があり、そこで与ることになりました。二日とも同じ場所でピオ神父様のお墓の見える所でごミサに与れ、嬉しかったです。二日間のガイドは原先生といつて日本人の女医さんで、今もピオ神父様の病院で働いているとのことでした。日本の医者資格では駄目だと言ふことで、イタリアで医者になるため、大学を出られたのだそうです。サンジヨバンニ・ロトントからローマへ向かう所で聖体の

奇跡が起こつたランチアーノに立ち寄ることが出来ました。原先生に説明をしつかり受けましたのでお知らせします。

南イタリアのランチアーノの町に十二世紀以前から最も偉大な最初の御聖体の奇跡が伝えられていて、この驚くべき奇跡は八世紀に聖レゴンツァーノ教会で、バジリカの修道司祭が御聖体の中にイエズス・キリストが実在することを疑つたことから起こつた。その司祭がミサ聖祭において、パンとぶどう酒に聖変化の祈りを唱えた時、パンは生きた肉となり、ぶどう酒は生きた血に変わったのだそうです。そのホスチアの大きさは、今日ローマカトリックで使われている大型のホスチアと同じ大きさだそうです。御肉の御聖体は色はわずかばかり褐色がかかっています。透き通つたバラ色をおびていて、御血は形や大きさが違う五つの固まりになつていて黄土色に近い色をしていました。みごとに彫刻された銀の御聖体顕示台におさめられ、御血は豪華な水晶の聖油入れの中に保存されています。奇跡に関する教会の検証は一五七四年に始まつて、一九七〇年から一九七一年、また一九八一年と部分的に続行さ

れ、科学的検証はシエナ大学のルツジエロ・ベルテリ教授の協力のもとに、解剖、病理、化学、臨床顕微鏡の権威オドアルド・リノーリ教授によつて完成され、検証は徹底的正確な科学的分析と一連の顕微鏡写真の資料に裏付けされて、次の様な結果が発表されています。一、肉は本物の肉、血も本物の血である。二、肉も血も人間のものである。三、肉は主要な構造を持つた完全な心臓部である。四、肉には心筋、心内膜、かすかな神経の部分があり、心筋が厚く盛り上がった部分には左心室がうかがわれる。五、肉も血も血液型はAB型である。六、血清蛋白のパーセンテージは新鮮な通常の血液と同じである。七、血液中には、塩化物、リン、マグネシウム、カリウム、ナトリウム、カルシウムなどのミネラルが認められる。八、奇跡の肉と血は十二世紀の間、放置していても、異変の状態はそのまま続いている。と、大きく大きく引き伸ばされた顕微鏡写真を前にして説明を受けました。イエズスの復活を疑つたトマスのように、見なければ、触らなければ、信じられない信仰の薄い私は考えさせられました。ローマのまわりには、この他に、六ヶ所も御聖体に関する奇跡

のあつた場所が記してありました。

ランチアーノの奇跡の御聖体に対する祈り

「天から下さつた生きるパンにましますイエズス、あなたの慈しみは何と素晴らしいでしょう。御聖体におけるあなたの本当の現存への信仰を永久にはげますために、今まで聞いたこともない奇跡をもつて、パンとぶどう酒の聖別された外観を肉と血に変えてくださいました。このランチアーノ市の御聖体巡礼堂に保存されているように、御聖体のあるじよ、あなたに対する私たちの信仰を強めてください。私たちが危険の時にも、心配と困難の時にも、あなたの足もとだけに慰めを探させてください。あなたは、私たちの聖櫃の神である囚人です。あなたはすべての恵みの尽きることはない泉です。あなたの御聖体の糧に対する飢え渴きを、私たちに起こしてください。それはみことばの通り、この天の糧を味わうことによつて、私たちが、今も世々にいたるまで、まことの命を味わうことができるためです。アーメン」